

岐阜大学応用生物科学部 附属野生動物管理学研究センター



年次報告書2011

岐阜大学応用生物科学部

岐阜県

目 次

はじめに	1
センターの概要	
沿革／運営／組織	2
目標と目的／施設	3
センターの活動内容	
活動一覧	4
センター紹介／セミナー	5
シンポジウム	6
普及活動	7～8
・ 野生動物救護室	
救護状況	
リハビリテーターボランティア活動状況	9～10
収容結果	11～12
・ 鳥獣害発生要因調査事業（委託事業）	
委託事業の目的／活動一覧	13
講習会・講座	14
・ 野生動物の保護管理対策委託事業（委託事業）	
委託事業の目的／活動一覧	15
講習会・講座	16
業績及び出版物	
論文／著書／その他	17
学会発表（一般口頭・ポスター）	
学会シンポジウム・自由集会等	18
他機関等への標本提供	
新聞掲載・テレビ放映等	19
組織と運営	
運営協議会と会議メンバー／運営経費／寄付一覧	20
あしがき	21

はじめに

附属野生動物管理学研究センター長 鈴木 正嗣

野生動物管理学研究センター（旧野生動物救護センター）は、野生動物に関わる多様な課題やニーズに応えつつ、間もなく改組後4年目を迎えることとなりました。これは、ひとえに関係者の皆様方からの暖かいご支援と励ましのおかげであり、この場を借りて厚くお礼申し上げます。

平成23年度は、当センターの組織運営に直結する幾つかの重要案件に対応いたしました。まずは、岐阜県庁からの2件の事業（「鳥獣害発生要因調査事業」ならびに「野生動物の保護管理対策委託事業」）の受託です。前者においては、県内各地で鳥獣害の発生状況や発生要因を調査し、被害に関わる諸課題を明示するとともに行政職員や農家に対する研修を実施することができました。後者は、人身事故の原因ともなり得るツキノワグマを対象に、適切な「個体数管理」、「生息環境の保全」、「被害防除」の統合的展開を目指す事業です。本事業によりツキノワグマの保護管理に関する理念が整理されつつあり、平成24年度も継続となる見通しです。また、これらの事業を通じて得た成果を、将来の野生動物対策を担う次世代に伝えるため、「岐阜県域農林業教育システム（県内の農林業教育機関を束ねた連携教育システム）」への参画が開始したところです。

本センターが受け皿となり、北海道大学人獣共通感染症リサーチセンターの「特定共同研究」が採択されたことも平成23年度の重要な展開の一つでした。野生動物はさまざまな疾病の感染源ともなるため、公衆衛生や家畜衛生の観点から留意すべき存在です。そのため、本研究の展開促進を目指して人獣共通感染症研究部門を新設し、併任教員を増員いたしました。

上記の事業のいずれも、野生動物が有する種々のリスク（農林業被害、環境への負荷、感染症、人身事故など）への対応を前提とするものです。すなわち、野生動物の位置づけが、「保護や愛護の対象」から「リスク管理の対象」へと転換したことに基づいております。また、この発想転換とも関連しますが、野生動物救護室につきましては、平成23年度をもって閉鎖することになりました。これは、岐阜県の第11次鳥獣保護事業計画を踏まえてはありますが、「教育研究や社会貢献の場を、個体レベルの対応からより高次の生物学的階層へとシフトさせる」という大学独自の決意でもあります。本件につきましては、さまざまなご意見があると思いますが、「これからの日本における野生動物と人間との付き合い方」を先取りした方針としてご理解いただければ幸いです。

私共としましては、平成24年度も野生動物管理の視点を基軸に、決して揺らぐことなく「生物多様性保全」と「リスク管理」に全力で取り組む所存でおります。つきましては、引き続きご指導とご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

センターの概要



沿革

平成15年11月 「COE野生動物救護センター」として設立

文部科学省の岐阜大学21世紀COEプログラム「野生動物の生態と病態からみた環境評価」の事業推進拠点として設立されました。

平成19年4月 「岐阜大学応用生物科学部附属野生動物救護センター」として改組

岐阜大学21世紀COEプログラムが平成19年3月末日をもって終了したのを受けて学部附属の施設となりました。

平成21年4月 「岐阜大学応用生物科学部附属野生動物管理学研究センター」として改組

「野生動物医科学分野」と「生息域管理学分野」を設置し、生産環境科学課程や食品生命科学課程の教員も運営協議員/併任教員として参画することになりました。傷病鳥獣救護は「野生動物救護室」にて継続することになりました。

平成23年6月 北海道大学人獣共通感染症リサーチセンターとの特定共同研究の採択による規程改正

「野生動物医科学部門」「生息域管理部門」「人獣共通感染症研究部門」の3部門体制となりました。



運営

「岐阜大学応用生物科学部附属野生動物管理学研究センター規程、および運営協議会細則」に従い、野生動物管理学研究センター運営協議会の議を経て事業を実施しています。

本センター野生動物救護室は、平成19年4月より岐阜大学応用生物科学部と岐阜県との協定書に基づき官学連携融合事業として共同運営しています。さらに、平成22年度からは「鳥獣害対策指導員育成事業」などの委託により、野生動物との軋轢軽減を目的とする活動も展開しています（岐阜県農村振興課などとの協働）。

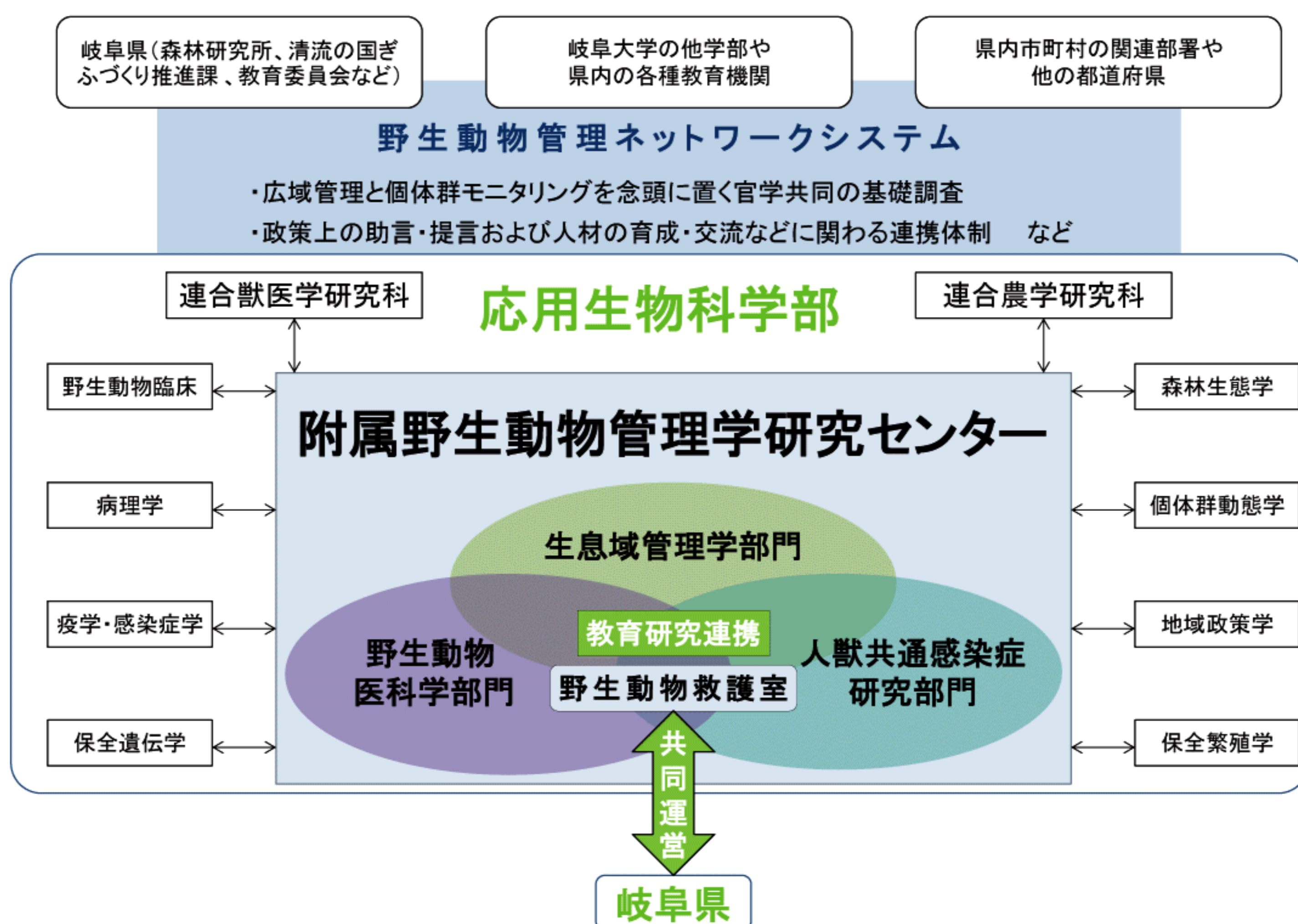
また、岐阜大学と岐阜県との包括連携協定にもとづく「環境をテーマとした共同事業」として「岐阜県野生動物管理ネットワークシステムの構築」を推進しています（この一環として、岐阜県環境生活部からの依頼により特定鳥獣保護管理計画検討会科学部会委員の推薦等も行っています）。



組織

本センターは、センター長、運営協議員/併任教員14名（センター長および事務長を除く）、事務長、リハビリテーター2名および岐阜県から派遣された非常勤獣医師1名、岐阜県からの委託事業（鳥獣害発生要因調査事業、野生動物の保護管理対策委託事業）による技術補佐員2名から構成されています。また、本センターは多くの市民や学生リハビリテーターの皆さんの協力を得ています。

下図に示すように、センター内組織（下方中央部）を基盤に、岐阜県内外における野生動物管理の中核として機能することを目指しています。

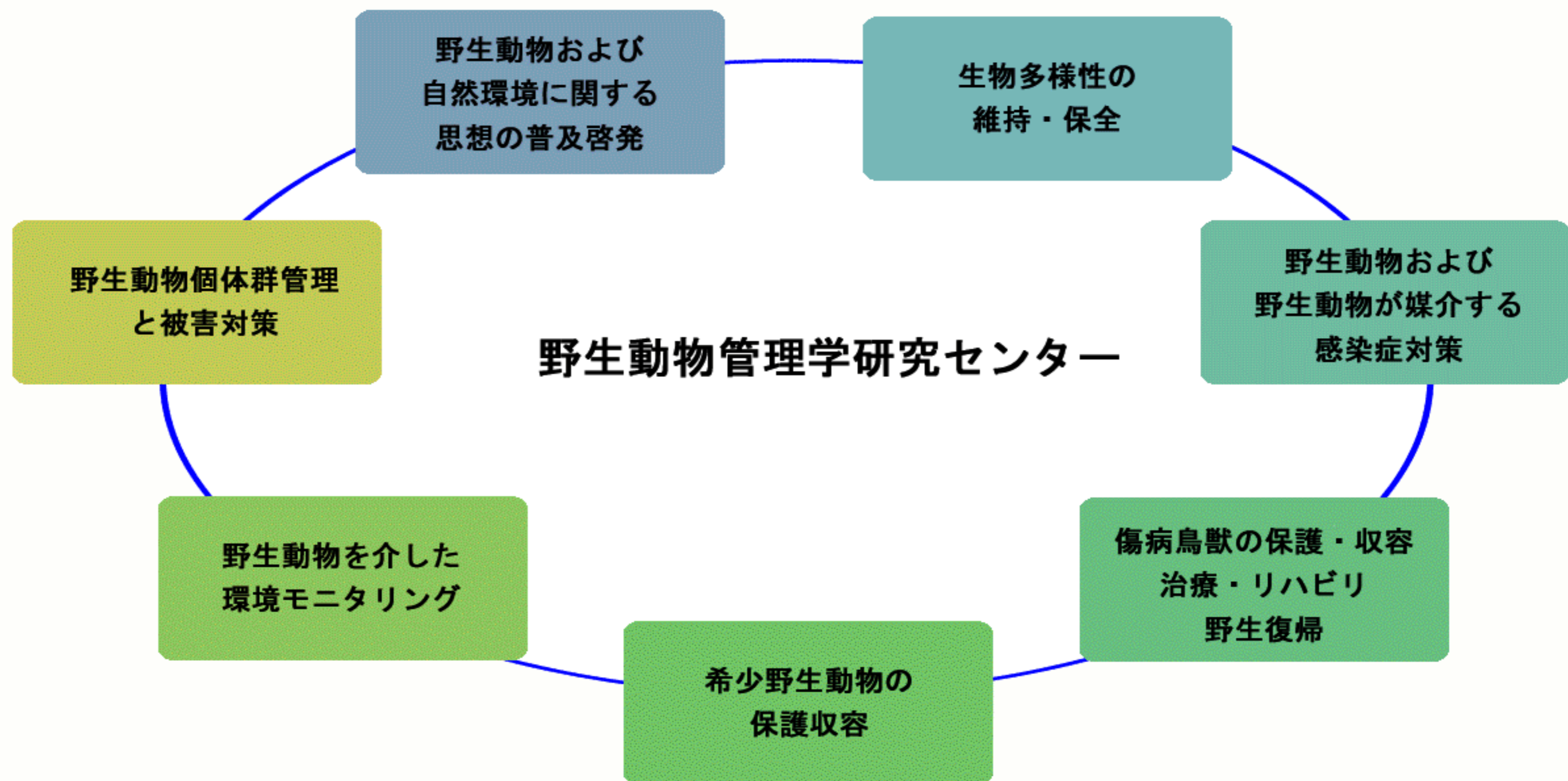


センターの概要



目標と目的

本センターは生物多様性と自然環境の保全を目標とする諸学問を推進し、それに関連する教育、研究および人材育成を目標としております。本センターの目的として以下の7項目を掲げて教育と文化活動を展開しています。



施設

事務室・診療棟、入院棟、個体群管理・被害管理デスク、フライングケージ、水鳥用中型ケージ、大型鳥類用ケージ、小型鳥類用ケージ、哺乳類用運動場などの施設を有しております。



事務室・診療棟と入院棟



診察室



手術室



個体群管理・被害管理デスク



フライングケージ



水鳥用中型ケージ



小型鳥類用ケージ



哺乳類用運動場

センターの活動内容



活動一覧

2011. 4. 29 河川環境楽園にてセンター紹介（原口）
-5. 5
2011. 5. 25 地域振興局市町村担当者向け野生動物研修会を開催（鈴木、浅野、羽賀）
2011. 6. 1 野生動物管理学研究センター施設見学会を開催（計2回）
-6. 2
2011. 8. 9 岐阜大学オープンキャンパス2011にてセンター紹介
-8. 11
2011. 9. 30 岐阜健康長寿・創薬推進機構 第3回異分野交流研究会にて講演（鈴木）
2011. 10. 1 2011動物感謝デー in JAPANにてパネル展示（柳井）
2011. 10. 11 平成23年度傷病野生鳥獣保護研修会にて講演（鈴木）
2011. 11. 4 野生動物連続講座 駆除か保護か？にて講演（鈴木）
2011. 11. 4 岐阜大学フェア 2011 in JAPANにてパネル展示（原口）
-11. 5
2011. 11. 12 第21回 学生野生動物リハビリテーター養成講習会を開催（鈴木、浅野、羽賀、原口、貞國）
2011. 11. 14 第21回 学生リハビリテーター養成講習会実技（羽賀、原口、森本、森元、貞國）
-12. 1. 20
2011. 11. 15 「岐阜県域農林業教育システム」の一環で出前講義（鈴木）
2011. 11. 18 岐阜市立網代小学校にて「いのちの授業」（浅野）
2011. 12. 14 平成23年度三重県獣害対策リーダー育成研修会にて講演（鈴木）
2011. 12. 17 「ぎふ清流未来の会議」の「生物多様性を考える講演会」で講演（鈴木）
2011. 12. 22 平成23年度 野生動物学講演会（第12回野生動物管理学研究センターセミナー）を開催
「鳥獣管理に関わる人材育成について」「イノシシの被害管理と個体群管理」小寺祐二氏
2012. 1. 24 「大型野生動物管理システムの構築～クマ、シカ、イノシシとの共存を目指して～」を共催（鈴木）
-25
2012. 2. 18 （株）中部環境サービス研修会にて「生物の多様性の保全と外来生物への対策 アライグマを例にして」
を講演（浅野）
2012. 2. 24 先進的捕獲技術に関する発表・研修会（平成23年度鳥獣保護管理における人材育成研修会）にて講演（鈴木）
2012. 2. 28 第13回、14回野生動物管理学研究センターセミナーを開催
「傷病野生猛禽の飼養管理＜基本的知識と技術＞」赤木智香子氏
「生物多様性保全と野生動物救護」須藤明子氏
2011. 2. 28 日本野生動物医学会「Student Seminar Course (SSC)」開催（浅野、羽賀、原口、森元、貞國）
- 3. 2
2012. 3. 4 三原市有害鳥獣対策マイスター養成講座・市民向け講演会にて講演（鈴木）
2012. 3. 7 岐阜県生活衛生課獣医師向け研修会を開催（浅野、羽賀、原口、森本）
2012. 3. 11 ニホンジカの誘引捕獲（シャープシューティング）成果説明会にて講演（鈴木）



センターの活動内容



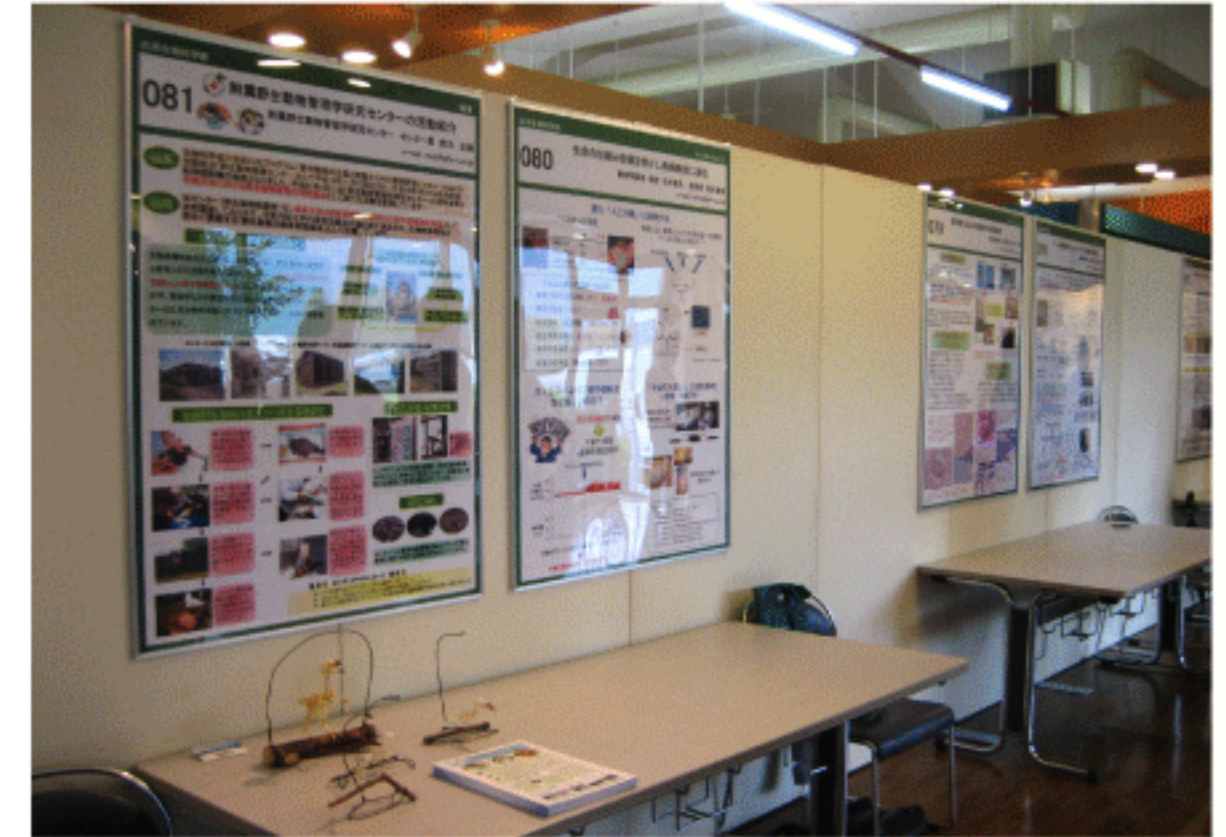
センター紹介

「身近な野鳥展」にて、パネル展示
日時：平成23年4月29日(金)～5月5日(木)
場所：河川環境楽園

「岐阜大学オープンキャンパス2011」にて、センター紹介
日時：平成23年8月9日(火)～11日(木)
場所：岐阜大学 B棟101多目的ホール

2011動物感謝デー in JAPANにてパネル展示
日時：平成23年10月1日(土)
場所：駒沢オリンピック公園

「岐阜大学フェア2011 in 岐阜大学キャンパス」にて、パネル展示
日時：平成23年11月4日(金) - 5日(土)
場所：岐阜大学 実験教室 I・第2食堂



「岐阜大学フェア2011 in 岐阜大学キャンパス」でのパネル展示の様子



セミナー

平成23年度 野生動物学講演会（第12回野生動物管理学研究センターセミナー）

この講演会は「岐阜県域農林業教育システム」、「大学改革推進等補助金（鳥取大学・京都産業大学との戦略連携）に基づく自治体関係者向け講演会」、「野生動物管理学研究センターセミナー」の3者の複合的な位置づけの下、開催されました。

日時：平成23年12月22日（木）
会場：岐阜大学応用生物科学部棟101多目的ホール
演題：鳥獣管理に関わる人材育成について
イノシシの被害管理と個体群管理
講師：小寺祐二氏
（宇都宮大学農学部附属里山科学センター・特任助教）
参加者：128名



第13回野生動物管理学研究センターセミナー

第13回、14回野生動物管理学研究センターセミナー

日時：平成24年2月28日（火）
会場：岐阜大学応用生物科学部棟102講義室
演題：〈第1部〉傷病野生猛禽の飼養管理〈基本的知識と技術〉
〈第2部〉生物多様性保全と野生動物救護
講師：赤木 智香子氏
（ラプター・フォレスト Raptor Forest代表）
須藤 明子氏
（株式会社イーグレット・オフィス 専務取締役）
参加者：61名



第14回野生動物管理学研究センターセミナー

センターの活動内容



シンポジウム

文部科学省特別教育研究経費（連携融合事業）国際シンポジウム

「大型野生動物管理システムの構築～クマ、シカ、イノシシとの共存を目指して～」

日時：2012年1月24日（火） - 25日（水）

場所：東京農工大学農学部本館講堂

《第1部》

「日本の大型獣管理の現状と課題」

- ・日本の狩猟と野生動物管理の変遷と現状
伊吾田 宏正氏（酪農学園大学講師）
- ・クマ類の管理の現状と課題
横山 真弓氏（兵庫県立大学准教授）
- ・ニホンジカの管理の現状と課題
梶 光一氏（東京農工大学教授）
- ・イノシシの管理の現状と課題
小寺 祐二氏
（宇都宮大学農学部附属里山科学センター特任助教）

《第2部》

「ヨーロッパの大型獣管理の現状と課題」

- ・ヨーロッパにおけるクマの管理の現状・課題・展望
Prof. Dr. Jon Swenson氏
（Norwegian University of Life Science, Norway）
- ・ヨーロッパにおけるシカ類の管理の現状・課題・展望
Dr. Peter Watson氏
（The Deer Initiative, UK Director of Northern Range）
- ・ヨーロッパにおけるイノシシの管理の現状・課題・展望
Prof. Dr. Marco Apollonio氏
（University of Sassari, Italy）

《第3部》

「総合討論」

主催：東京農工大学

共催：Norwegian University of Life Sciences、宇都宮大学、兵庫県立大学・兵庫県森林動物研究センター
岐阜大学応用生物科学部附属野生動物管理学研究センター、酪農学園大学

後援予定：環境省、農林水産省、横浜国立大学COE、森林総合研究所、野生生物保護学会、日本哺乳類学会
日本生態学会、大日本猟友会

文部科学省特別教育研究経費（連携融合事業）国際シンポジウム
**大型野生動物の管理システムの構築
～クマ、シカ、イノシシとの共存を目指して～**
日時：2012年1月24日(火) 9:00-17:30, 25日(水) 9:00-12:00
会場：東京農工大学農学部本館講堂

24(火) 8:30 受付開始
9:00-9:30 開会挨拶・趣旨説明

第I部 日本の大型獣管理の現状と課題
9:30-10:00
講演1 「日本の狩猟と野生動物管理の変遷と現状」
酪農学園大学講師 伊吾田宏正
10:00-10:30
講演2 「クマ類の管理の現状と課題」
兵庫県立大学准教授 横山真弓
10:30-11:00
講演3 「ニホンジカの管理の現状と課題」
東京農工大学教授 梶 光一
11:00-11:30
講演4 「イノシシの管理の現状と課題」
宇都宮大学農学部附属里山科学センター特任助教 小寺祐二
11:30-12:00 議論

第II部 ヨーロッパの大型獣管理の現状と課題
13:00-14:00
講演5 「ヨーロッパにおけるクマの管理の現状・課題・展望」
Norwegian University of Life Sciences, Norway
Prof. Dr. Jon Swenson
14:00-15:00
講演6 「ヨーロッパにおけるシカ類の管理の現状・課題・展望」
The Deer Initiative, UK Director of Northern Range
Dr. Peter Watson
(休憩)
15:20-16:20
講演7 「ヨーロッパにおけるイノシシの管理の現状・課題・展望」
University of Sassari, Italy
Prof. Dr. Marco Apollonio
16:20-17:20 質疑応答
17:20-17:30 中締め挨拶

25(水) 第III部 総合討論
8:30 受付開始
9:00-11:50 総合討論
11:50-12:00 閉会挨拶

アクセス：
JR「国分寺駅」下車、「府中線行バス（明慶学院経由）」約10分「講義棟」バス停下車
京王線「府中駅」下車、「国分寺駅南口行バス（明慶学院経由）」約7分「講義棟」バス停下車
JR「北野中駅」下車、徒歩約12分
詳細はプロジェクトHP(www.tuist.ac.jp/yakan/index.html)をご覧ください。
お問い合わせ：野生動物管理システム実証推進室 e-mail:yakan@cc.tuist.ac.jp

主催：東京農工大学
共催：Norwegian University of Life Sciences、宇都宮大学、兵庫県立大学、兵庫県森林動物研究センター、岐阜大学応用生物科学部附属野生動物管理学研究センター、酪農学園大学
後援：環境省、農林水産省、横浜国立大学COE、森林総合研究所、野生生物保護学会、日本哺乳類学会、日本生態学会、大日本猟友会

センターの活動内容



普及活動

地域振興局市町村担当者向け野生動物研修会

日時：平成23年5月25日(水)13:30～16:00

会場：連合大学院棟 6階合同ゼミナール室

内容：①傷病鳥獣救護と生物多様性保全
②附属野生動物管理学研究センター
野生動物救護室の紹介 野鳥ヒナの救護について
③野生動物と感染症

講師：鈴木、浅野、羽賀

受講者：約40名

平成23年度傷病野生鳥獣保護研修会

日時：平成23年10月11日(火)13:30～16:00

会場：長良川国際会議場5階 国際会議室

内容：「わが国における野生動物の現状と管理について」

講師：鈴木

第21回学生野生動物リハビリテーター養成講習会

日時：11月12日(土)10:30～15:00

会場：連合大学院棟 6階合同ゼミナール室

内容：野生動物救護の意義
野生動物リハビリテーターとは
野生動物の現状と生息環境変化の関
センターの救護状況
人と動物の共通感染症
野生動物の保護管理の概要
野生動物の保護管理の実際
学生リハビリテーターの活動の紹介

講師：鈴木、浅野、羽賀、貞國

受講者：22名

岐阜県獣医師会「いのちの授業」

日時：平成23年11月18日(金)10:45～12:15

会場：岐阜市立網代小学校

内容：野生動物との共存
傷病鳥獣救護の考え方
野生動物標本を用いた講義

講師：浅野

参加者：岐阜市立網代小学校4年生 15名

岐阜健康長寿・創薬推進機構 第3回異分野交流研究会

日時：平成23年9月30日(金)15:00～17:55

会場：岐阜薬科大学大学院講義室 新学舎2F 北東側

主催：岐阜県獣医師会岐阜支部

内容：薬学と獣医学の接点、

演題：「生薬として利用されているニホンジカの
特殊皮膚腺（尾腺）の形態と機能」

講師：鈴木

野生動物連続講座 駆除か保護か？第2回

日時：23年11月4日(金)19:00～21:00

会場：さっぽろ自由学校「遊」

内容：「なぜエゾシカの個体数調整が必要なのか」

講師：鈴木

「岐阜県域農林業教育システム」の出前講義

日時：平成23年11月15日(火)11:00～12:50

会場：岐阜県立岐阜農林高等学校

演題：野生動物被害問題の基礎知識

講師：鈴木

参加者：動物科学科全学年約120名、
教員8名



第21回学生リハビリテーター養成講習会



「岐阜県域農林業教育システム」の出前講義



岐阜県獣医師会「いのちの授業」

センターの活動内容



普及活動

平成23年度三重県獣害対策リーダー育成研修会

日時：平成23年12月14日（水）10:00～17:00

会場：三重県勤労者福祉会館 6階研修室

内容：野生動物管理の重要性とその技術

講師：鈴木

参加者：市町・県、農林業団体において
農業獣害対策を担当する方

（株）中部環境サービス研修会

日時：平成24年2月18日（土）13:30～15:00

会場：かんぼの宿 岐阜羽島会議室

内容：生物の多様性の保全と外来生物への対策
アライグマを例にして

講師：浅野

参加：35名

三原市有害鳥獣対策マイスター養成講座

市民向け講演会

「狩猟者の役割と野生動物の保護管理」

～三原市の狩猟者の現状と今後～

日時：平成24年3月4日（日）13:30～16:35

会場：広島県三原市中央公民館 2階中講堂

内容：ハンターの社会的重要性、
狩猟を取り巻く現状や最近の話題など

講師：鈴木

ニホンジカの誘引捕獲

（シャープシューティング）成果説明会

日時：平成24年3月11日（日）13:00～15:30

会場：静岡県富士宮市役所 7階会議室

内容：ニホンジカの新しい捕獲方法

講師：鈴木

生物多様性を考える講演会

日時：平成23年12月17日（土）12:45～13:45

会場：ふれあい福寿会館 3階大会議室

内容：狩猟がどうして生物多様性を守ることに
つながるのか

講師：鈴木

参加：岐阜・中濃地域の小学生から高校生

先進的捕獲技術に関する発表・研修会

（平成23年度鳥獣保護管理における人材育成研修会）

日時：平成24年2月24日（金）13:30～17:15

会場：日本青年館ホテル 3階302号室

内容：「シャープシューティングの考え方と技術」

講師：鈴木

岐阜県生活衛生課向け研修会

日時：平成24年3月7日（水）10:00～16:00

会場：連合大学院棟 2階併任教官控室

内容：傷病鳥獣救護のABC
種の判別、関連法規、ハンドリング
野生動物と感染症、その他
ハンドリング実習
衛生栄養管理実習

講師：浅野、羽賀、原口

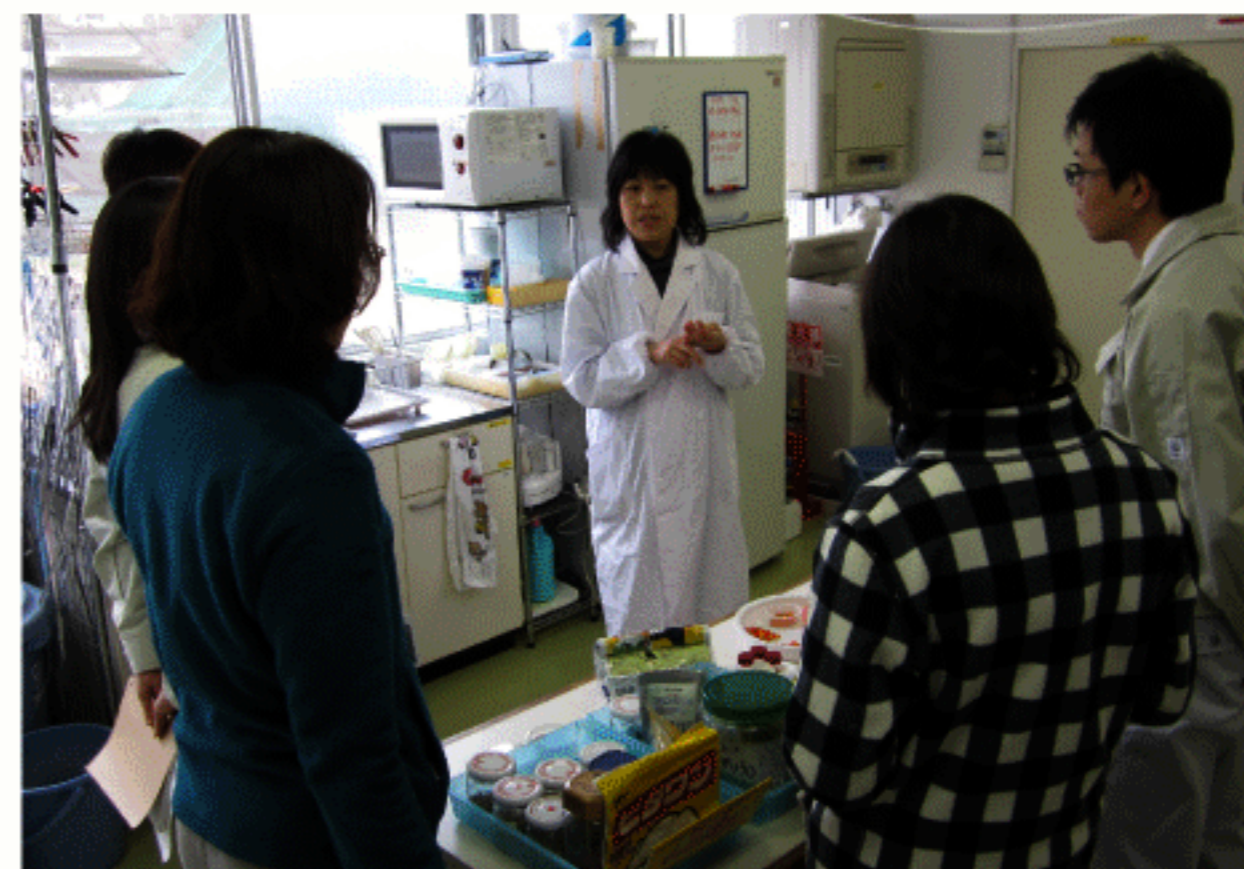
参加：12名



（株）中部環境サービス研修会



岐阜県生活衛生課向け研修会 座学



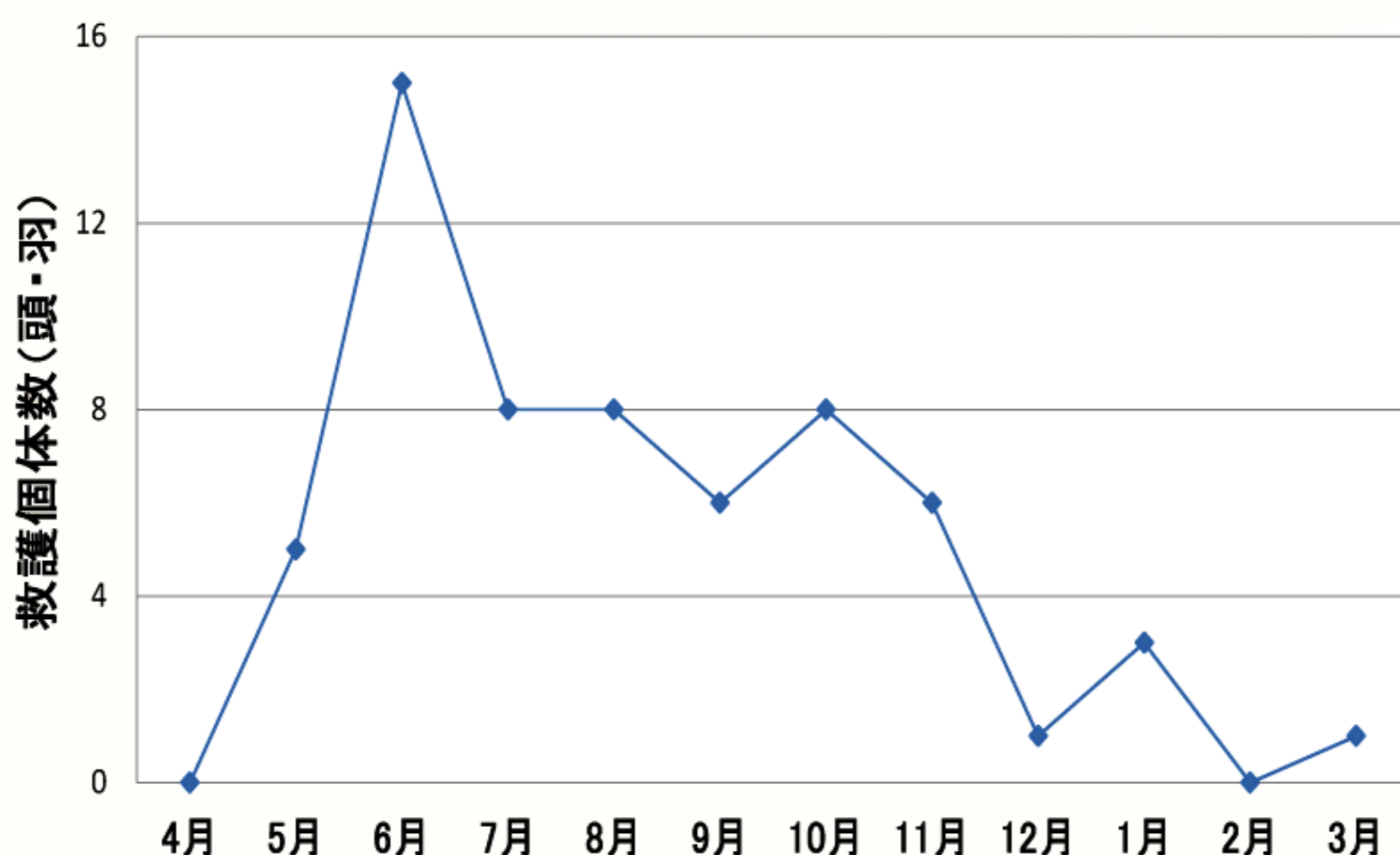
岐阜県生活衛生課向け研修会 実習

センターの活動内容

・野生動物救護室

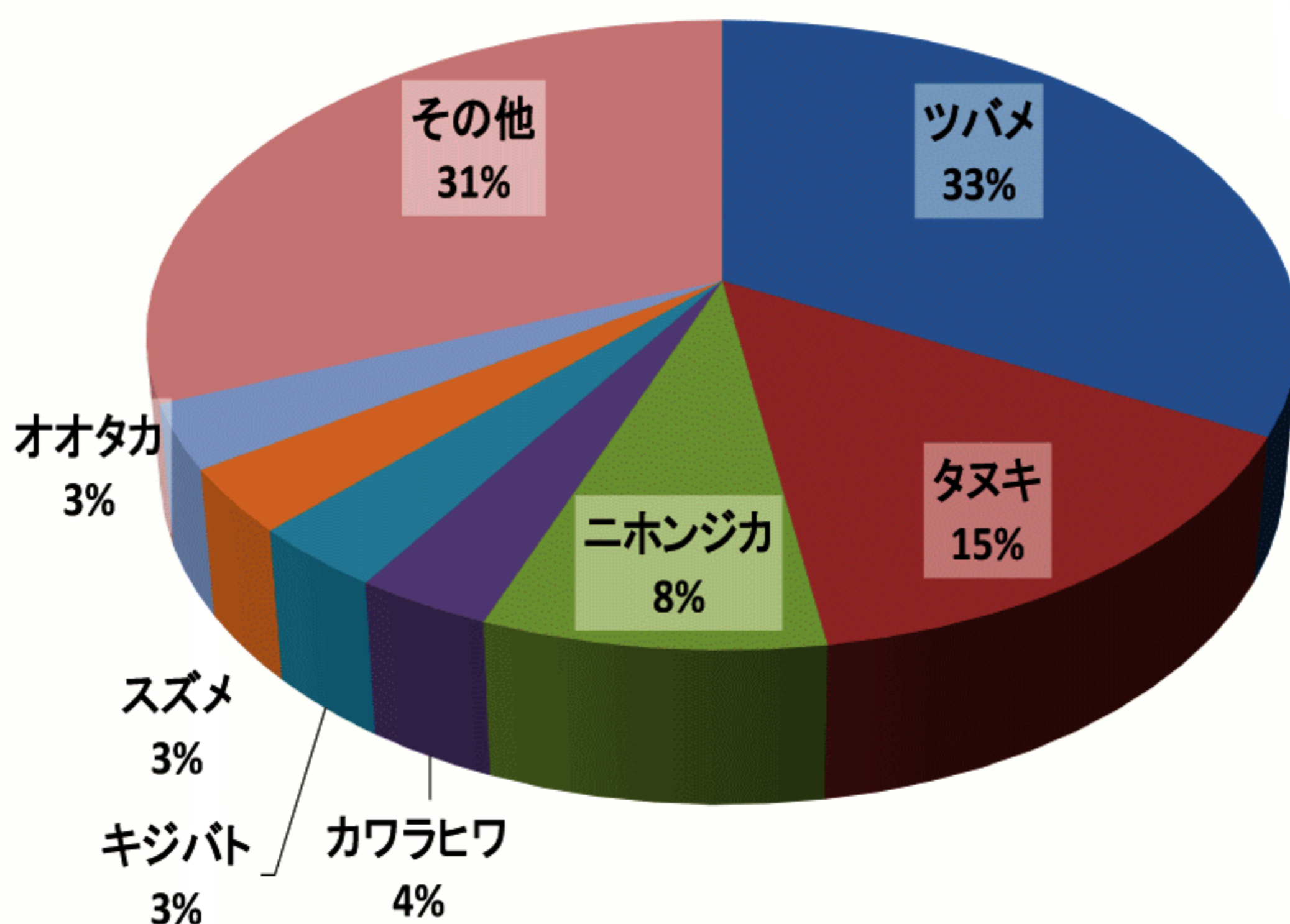


救護状況



◀ 救護個体点数

搬入された傷病鳥獣は、鳥類21種44羽、哺乳類5種17頭でした。昨年度末から続いた国内での鳥インフルエンザの発生に伴い、5月まで傷病野鳥の受け入れを休止しました。また救護室の閉鎖に伴い2月以降の受け入れを原則中止したため、搬入数は合計61頭羽と例年より少なくなっています。



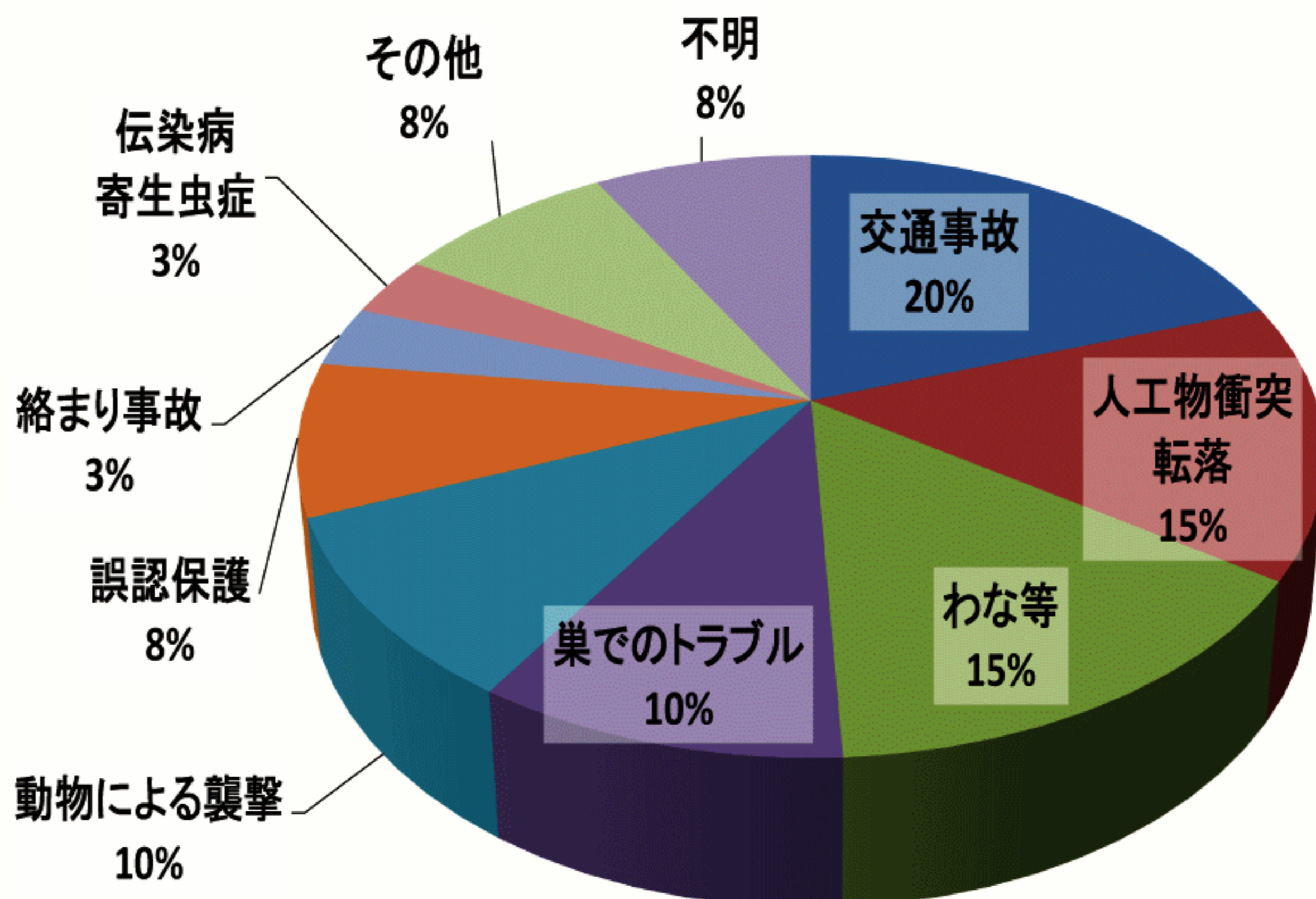
※数値の四捨五入の関係で、内訳の値が一致しない場合があります。

◀ 救護動物種

本年度はツバメの搬入が最も多く、複数のヒナが同時に運び込まれる事例が目立ちました。次にタヌキ、ニホンジカの搬入と続き、タヌキの救護原因では、交通事故とともに、幼獣での救護事例が多くありました。

▶ 救護原因

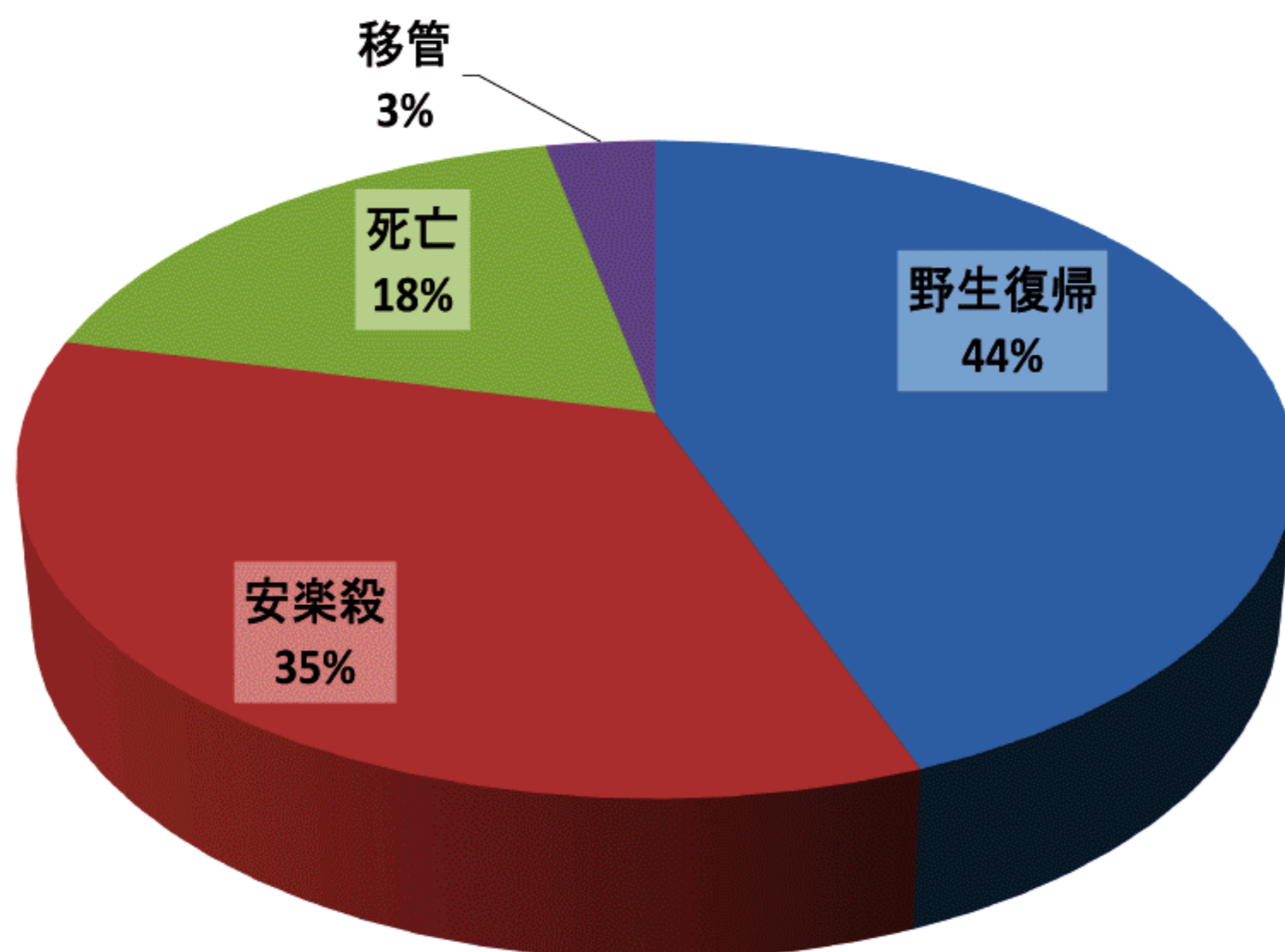
救護原因では例年多い交通事故、人工物衝突が全体の3分の1を占めました。一方、例年ほとんど見られない、わな等を原因とする救護が15%を占めました。これはネズミ捕獲用粘着シートによる誤捕獲事例が複数見られたためです。



センターの活動内容

・ 野生動物救護室

■ 救護状況



◀ 転帰

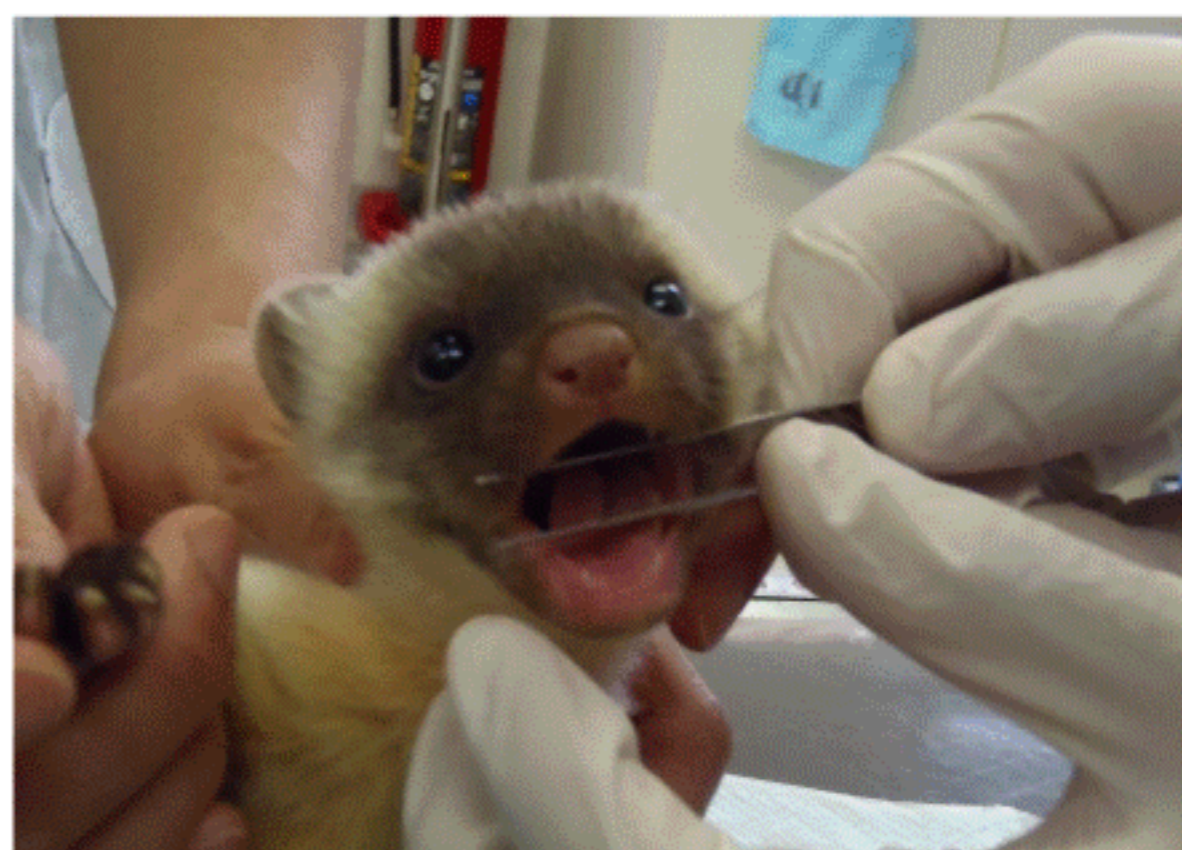
救護された動物の44%が野生復帰を果たしました。
35%は獣医学的・生態学的判断により安楽殺を選択し、18%は治療のかわりに死亡しました。

■ リハビリレーターボランティア活動状況 (のべ人数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
学生	10	4	19	5	8	3	2	4	30	22	4	3	114
市民	14	8	5	8	2	5	9	3	1	0	6	7	68



WRC11-004ツバメ
(巣に戻す直前の検査の様子)



WRC11-002テン
(乳歯確認中)



WRC11-005タヌキ
(岐阜県リハビリレーターボランティア作業風景)



フライングケージでのリハビリ風景

センターの活動内容

・ 野生動物救護室

■ 収容結果

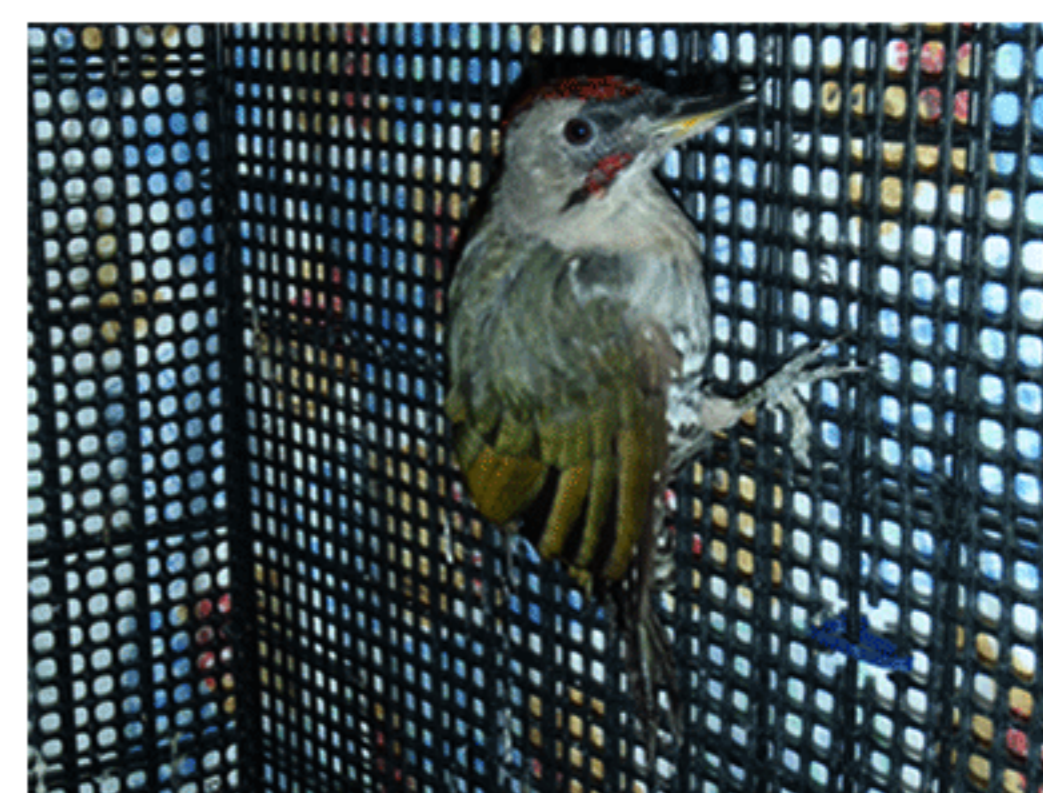
個体番号	種名	搬入日	救護地点	転帰
WRC11-001	スズメ	2011/5/11	岐阜市	野生復帰
WRC11-002	テン	2011/5/19	関市	野生復帰
WRC11-003	ツバメ	2011/5/26	岐阜市	野生復帰
WRC11-004	ツバメ	2011/5/27	岐阜市	野生復帰
WRC11-005	タヌキ	2011/5/31	岐阜市	野生復帰
WRC11-006	ツバメ	2011/6/10	各務原市	死亡
WRC11-007	ツバメ	2011/6/10	各務原市	死亡
WRC11-008	ツバメ	2011/6/10	各務原市	死亡
WRC11-009	ツバメ	2011/6/10	各務原市	獣医学的判断により安楽殺
WRC11-010	ツバメ	2011/6/10	各務原市	野生復帰
WRC11-011	ツバメ	2011/6/10	各務原市	野生復帰
WRC11-012	ツバメ	2011/6/10	各務原市	野生復帰
WRC11-013	ニホンジカ	2011/6/10	本巣市	獣医学的判断により安楽殺
WRC11-014	チョウゲンボウ	2011/6/13	岐阜市	獣医学的判断により安楽殺
WRC11-015	カワラヒワ	2011/6/14	岐阜市	野生復帰
WRC11-016	スズメ	2011/6/15	岐阜市	野生復帰
WRC11-017	ツバメ	2011/6/17	岐阜市	獣医学的判断により安楽殺
WRC11-018	ツバメ	2011/6/17	岐阜市	野生復帰
WRC11-019	タヌキ	2011/6/22	多治見市	死亡
WRC11-020	カワセミ	2011/6/23	岐阜市	野生復帰
WRC11-021	ツバメ	2011/7/5	岐阜市	獣医学的判断により安楽殺
WRC11-022	ツバメ	2011/7/15	岐阜市	野生復帰
WRC11-023	ツバメ	2011/7/20	岐阜市	野生復帰
WRC11-024	ツバメ	2011/7/22	岐阜市	獣医学的判断により安楽殺
WRC11-025	ツバメ	2011/7/25	羽島市	死亡
WRC11-026	ツバメ	2011/7/28	各務原市	野生復帰
WRC11-027	ツバメ	2011/7/28	各務原市	死亡
WRC11-028	ムクドリ	2011/7/31	岐阜市	野生復帰
WRC11-029	タヌキ	2011/8/4	可児市	死亡
WRC11-030	アオゲラ	2011/8/4	関市	獣医学的判断により安楽殺



WRC11-014 チョウゲンボウ



WRC11-020 カワセミ



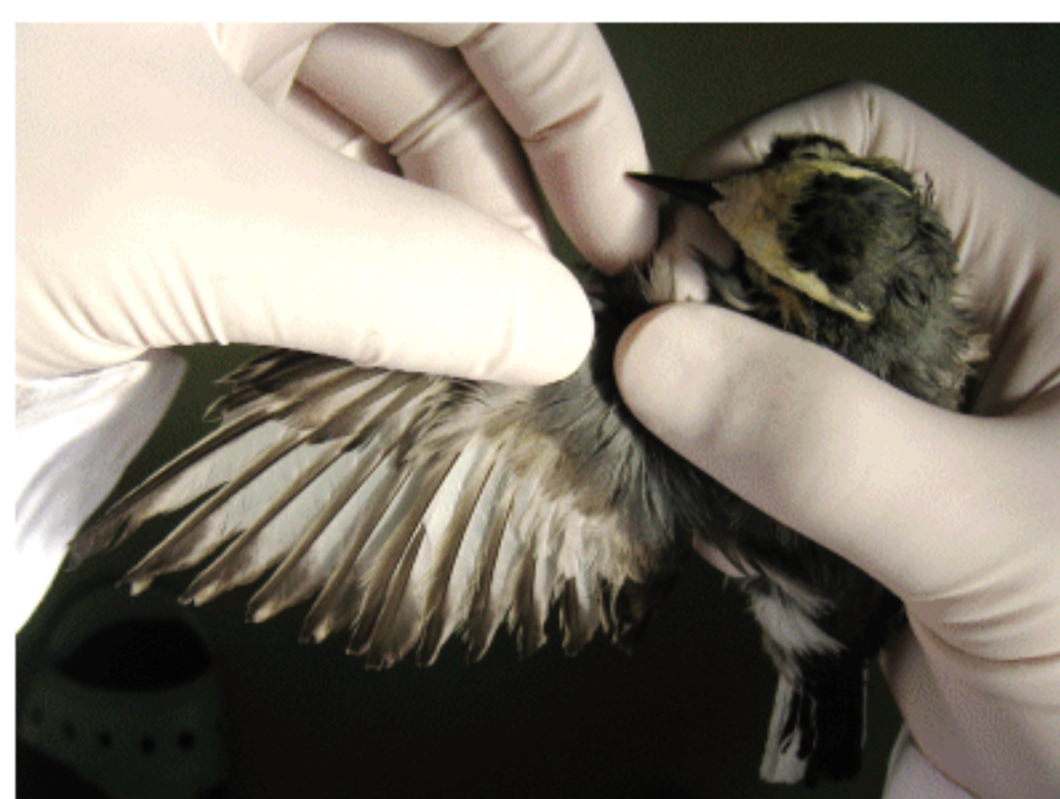
WRC11-030 アオゲラ

センターの活動内容

・ 野生動物救護室

■ 収容結果

個体番号	種名	搬入日	救護地点	転帰
WRC11-031	トビ	2011/8/9	可児市	獣医学的判断により安楽殺
WRC11-032	カワラヒワ	2011/8/10	揖斐郡揖斐川町	死亡
WRC11-033	タヌキ	2011/8/24	岐阜市	野生復帰
WRC11-034	ニホンジカ	2011/8/25	揖斐郡	獣医学的判断により安楽殺
WRC11-035	シベリアイタチ	2011/8/25	岐阜市	生態学的判断により安楽殺
WRC11-036	ツバメ	2011/8/29	恵那市	獣医学的判断により安楽殺
WRC11-037	オオコノハズク	2011/9/8	美濃加茂市	移管
WRC11-038	オオタカ	2011/9/8	美濃加茂市	野生復帰
WRC11-039	ヨタカ	2011/9/8	本巣市	獣医学的判断により安楽殺
WRC11-040	アブラコウモリ	2011/9/13	岐阜市	獣医学的判断により安楽殺
WRC11-041	ツバメ	2011/9/14	高山市	野生復帰
WRC11-042	ニホンジカ	2011/9/28	揖斐郡揖斐川町	死亡
WRC11-043	ニホンジカ	2011/10/4	揖斐郡揖斐川町	獣医学的判断により安楽殺
WRC11-044	タヌキ	2011/10/11	揖斐郡池田町	獣医学的判断により安楽殺
WRC11-045	タヌキ	2011/10/13	羽島市	野生復帰
WRC11-046	タヌキ	2011/10/13	羽島市	野生復帰
WRC11-047	オオタカ	2011/10/19	関市	移管
WRC11-048	アオバズク	2011/10/25	美濃加茂市	獣医学的判断により安楽殺
WRC11-049	タヌキ	2011/10/25	岐阜市	獣医学的判断により安楽殺
WRC11-050	ヤマシギ	2011/10/31	岐阜市	野生復帰
WRC11-051	オオミズナギドリ	2011/11/7	関市	野生復帰
WRC11-052	ハクセキレイ	2011/11/7	本巣市	野生復帰
WRC11-053	ハイタカ	2011/11/9	恵那市	獣医学的判断により安楽殺
WRC11-054	タヌキ	2011/11/14	多治見市	野生復帰
WRC11-055	キジバト	2011/11/16	岐阜市	野生復帰
WRC11-056	ゴイサギ	2011/11/22	岐阜市	死亡
WRC11-057	ハヤブサ	2011/12/16	岐阜市	死亡
WRC11-058	コミミズク	2012/1/8	岐阜市	獣医学的判断により安楽殺
WRC11-059	コガモ	2012/1/13	揖斐郡池田町	野生復帰
WRC11-060	キジバト	2011/1/25	大垣市	獣医学的判断により安楽殺
WRC11-061	ニホンジカ	2012/3/21	本巣市	獣医学的判断により安楽殺



WRC11-052 ハクセキレイ



WRC11-056 ゴイサギ



WRC11-058 コミミズク

センターの活動内容



・鳥獣害発生要因調査事業（委託事業）



委託事業の目的

近年、イノシシやサルなどの野生鳥獣による農作物被害が深刻化し、営農意欲の低下や耕作放棄地の増加、さらには農山村地域の活力低下などが問題となっています。

被害拡大の背景には様々な要因が考えられますが、被害対策をする農家自身が被害をもたらす鳥獣の生態や正しい被害防除の方法を理解できていないところも大きな問題の一つです。

そこで、県内各地域において、有害鳥獣の食害や生息状況に関する調査を実施すると共に、農家の被害防除法の不備についても調査し、地域の実態にあった効果的な鳥獣害対策を提案することで、岐阜県内の農作物鳥獣被害を軽減することを目的とします。



活動一覧

- 2011. 4. 28 アグリエンジョイネット岐阜の研修会への参加
- 2011. 5. 24 県内の重点支援地区12ヵ所における鳥獣害発生現場の視察（計10回）
-6. 22
- 2011. 6. 28 高山市荘川地域に関するミズバショウ群落保護の為の電気柵設置研修
- 2011. 7. 11 兵庫県森林動物研究センターが行う鳥獣害の現場対応の視察
- 2011. 7. 14 野生鳥獣被害対策講演会 ～これならできる獣害対策～ の講演への参加
- 2011. 7. 15 白川村荻町における集落防護柵の設置研修会への参加
- 2011. 8. 1 踏査・聞き取り・写真・カメラトラップを用いての被害状況調査、痕跡調査
-12. 3. 15（白川村・恵那市・可児市・下呂市・山県市・海津市・揖斐川町地域合計58回）
- 2011. 8. 8 可児市における鳥獣被害の状況について聞き取り調査
- 2011. 8. 1 恵那市における鳥獣被害の状況について聞き取り調査
- 2011. 9. 2 下呂市における鳥獣被害の状況について聞き取り調査
- 2011. 11. 11 岐阜県農作物鳥獣害対策相談員養成講座の参加
- 2011. 12. 15 「野生動物の保全と管理の最前線シンポジウム」・北陸・東海・近畿地域鳥獣害対策研修会に参加
-12. 16
- 2012. 1. 24 大型野生動物の管理システムの構築シンポジウムへの参加
- 1. 25
- 2012. 1. 31 まんなか鳥獣害対策研修会（第3回）にて農業被害対策の発表
- 2012. 3. 17 2011年度谷汲村大洞区会にて集落環境調査結果の報告
- 2012. 3. 21 海津市南濃町有害鳥獣対策協議会にて集落環境調査結果の報告

センターの活動内容

・鳥獣害発生要因調査事業（委託事業）



講習会・講座

第3回まんなか鳥獣害対策研修会

日時：平成24年1月31日 11:00～15:00

会場：揖斐総合庁舎

内容：農業被害対策紹介

講師：貞國

対象：行政職員

参加者：約20名

2011年度谷汲村大洞区会

日時：2012年3月17日 19:30～20:00

会場：谷汲村大洞公民館

内容：集落環境調査結果の報告

講師：貞國

対象：農家

参加者：約40名

海津市南濃町有害鳥獣対策協議会

日時：2012年3月21日 19:00～19:30

会場：南濃庁舎文化会館

内容：集落環境調査結果の報告

講師：貞國

対象：農家、行政職員

参加者：約40名

現地での調査写真の一部



イノシシに掘り返された痕



柵の下をくぐろうとした痕

カメラトラップを利用した食害現場の撮影



クリを食べるニホンジカ



マルチシートをはがすイノシシ

センターの活動内容



・野生動物の保護管理対策委託業務（委託事業）



委託事業の目的

ツキノワグマは、不慮の遭遇等により人の生命が危険にさらされる可能性の高い野生動物であり、これを未然に防止する体制を構築する必要があります。

また、ツキノワグマとの共生を図っていくために、県民のツキノワグマに対する正しい理解のもと「クマの個体数管理」、「生息環境の保全」、「被害防除対策」を総合的に取り組み、県の特定鳥獣保護管理計画を効果的に推進することを目的とします。



活動一覧

- 2011. 8. 18 岐阜地域でのツキノワグマに関する研修会
- 2011. 8. 23 東濃地域でのツキノワグマに関する研修会
- 2011. 8. 25 西濃地域でのツキノワグマに関する研修会
- 2011. 8. 26 飛騨地域でのツキノワグマに関する研修会
- 2011. 8. 29 中濃地域でのツキノワグマに関する研修会
- 2011. 9. 14 岐阜県の堅果類の豊凶調査への同行
- 2011. 10. 5 飛騨市における爪痕調査
-7
- 2011. 10. 19 飛騨市における爪痕調査
-21
- 2011. 10. 27 関市における爪痕調査
-28
- 2011. 11. 1 関市における爪痕調査
-2
- 2011. 11. 16 山県市における爪痕調査
-17
- 2011. 11. 22 山県市における爪痕調査
- 2011. 12. 8 乗鞍畳平クマ等対策会議へ参加

センターの活動内容



・野生動物の保護管理対策委託業務（委託事業）



講習会・講座

・ツキノワグマ対応に関する研修会

ツキノワグマ対応に関する研修会を2011年8月18日 - 29日の期間に計5箇所で開催しました。

研修会は、ツキノワグマの出没があった場合に現場対応にあたる行政職員、警察官を対象としました。

研修会の内容は、ツキノワグマの生態、人身事故の危機管理、岐阜県におけるツキノワグマの保護管理、保護管理の具体的手法、住民等への説明、委託事業の紹介について行われました。

ツキノワグマ対応に関する研修会（第1回）

日時：平成23年8月18日 13:00～16:30

会場：岐阜総合庁舎 3東1会議室

講師：森元

参加者：16名

ツキノワグマ対応に関する研修会（第2回）

日時：平成23年8月23日 13:00～16:30

会場：東濃西部総合庁舎 5南会議室

講師：森元

参加者：12名

ツキノワグマ対応に関する研修会

日時：平成23年8月25日 13:00～16:30

会場：西濃総合庁舎 2-3会議室

講師：森元

参加者：14名

ツキノワグマ対応に関する研修会

日時：平成23年8月26日 13:00～16:30

会場：飛騨総合庁舎 厚生2会議室

講師：森元

参加者：9名

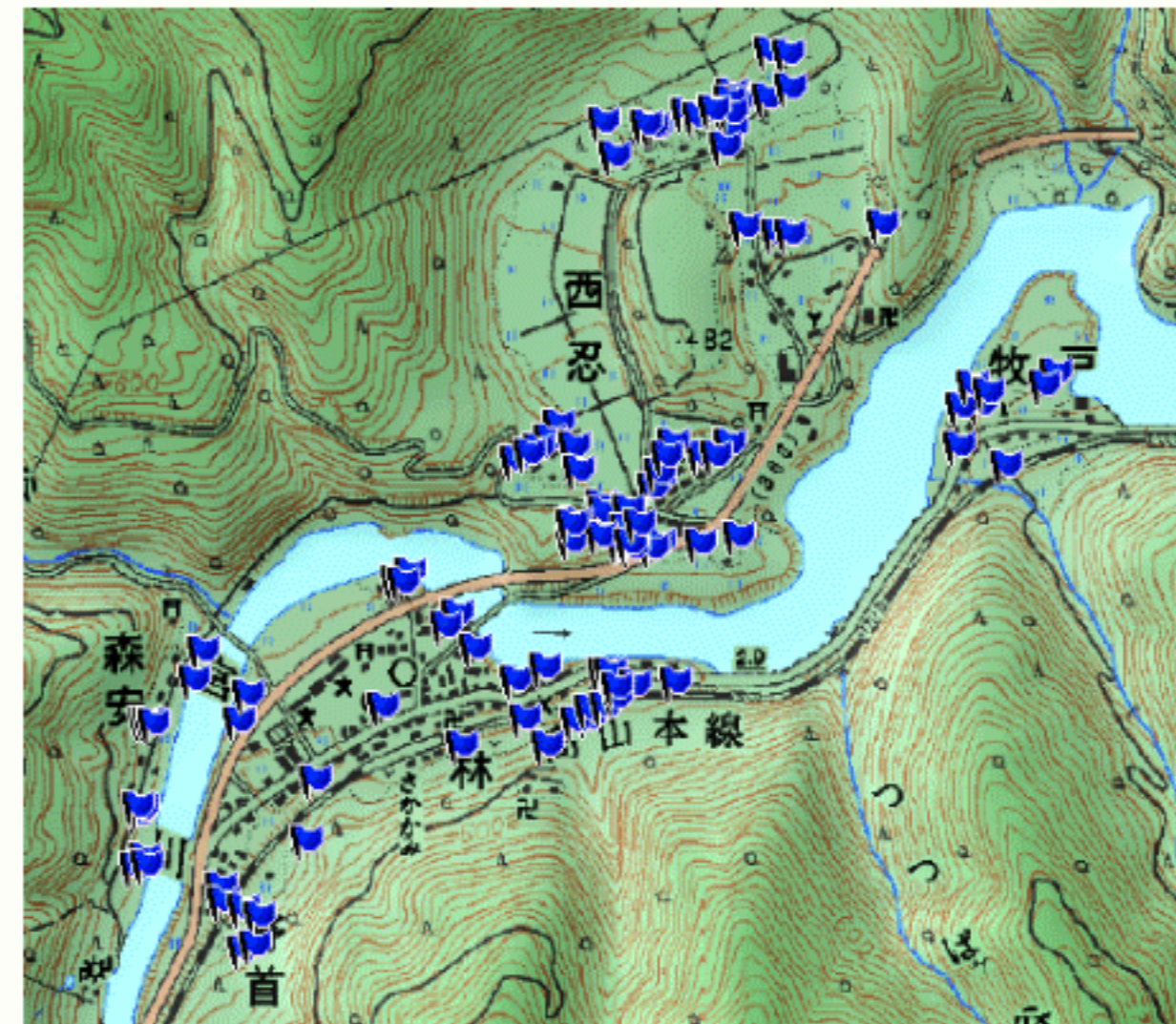
ツキノワグマ対応に関する研修会

日時：平成23年8月29日 13:00～16:30

会場：中濃総合庁舎 5南1.2会議室

講師：森元

参加者：23名

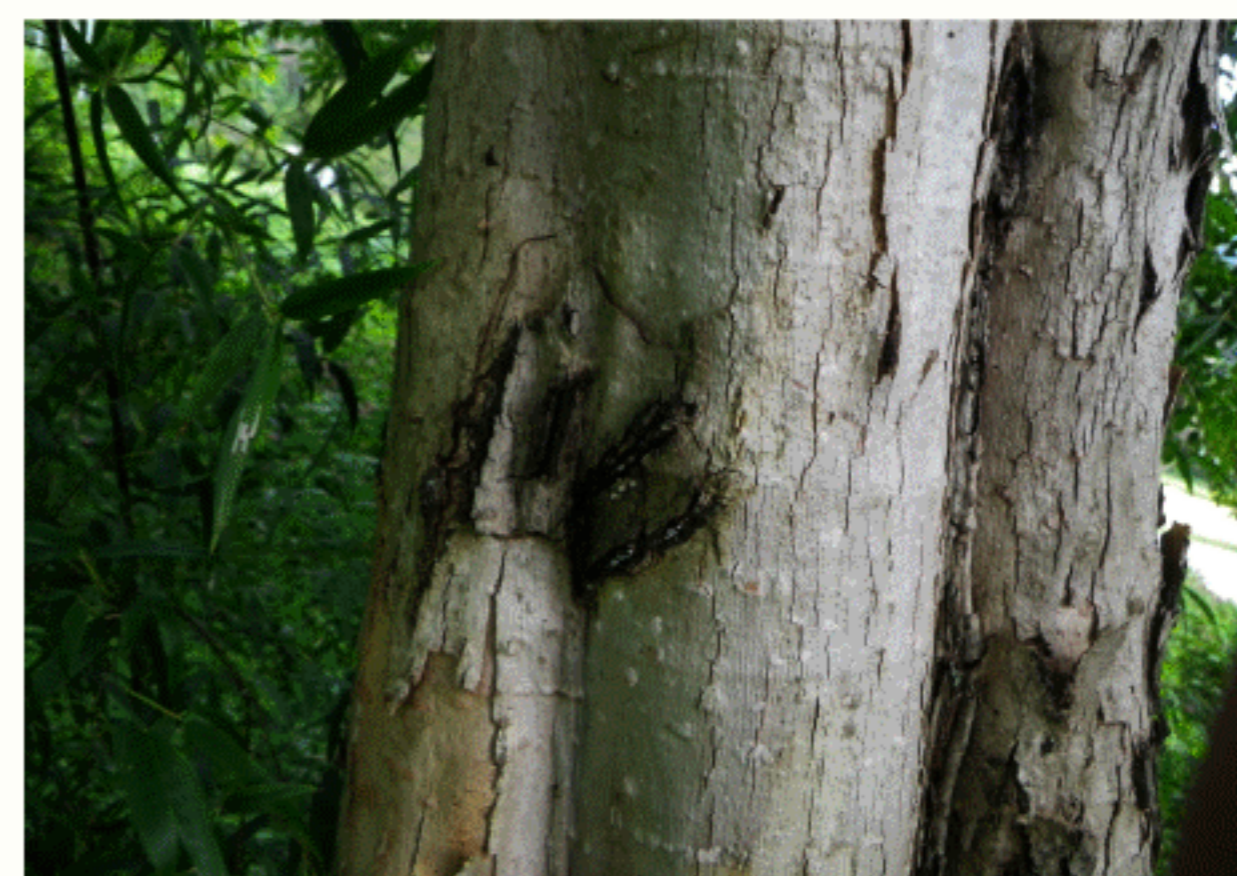


ツキノワグマの爪痕を調査した柿の木の地点

柿の木におけるツキノワグマの爪痕調査



ツキノワグマの爪痕の保有を調べる



柿の木に残ったツキノワグマの爪痕



論文

1. Inoue, K., Kabeya, H., Fujita, H., Makino, T., Asano, M., Inoue, S., Inokuma, H., Nogami, S., and Maruyama, S. : Serological survey of five zoonoses, scrub typhus, Japanese spotted fever, tularemia, lyme disease, and Q fever in feral raccoons (*Procyon lotor*) in Japan. Vector-Borne Zoonotic Dis. 11: 15-19, 2011.
2. Yamanaka, A., Asano, M., Suzuki, M., Mizoguchi, T., Oi, T., Shimozuru, M., and Tsubota, T.: Evaluation of stored body fat in nuisance-killed Japanese black bears (*Ursus thibetanus japonicus*). Zoolog. Sci. 28: 105-111, 2011.
3. Sato, S., Kabeya, H., Makino, T., Suzuki, K., Asano, M., Inoue, S., Sentsui, H., Nogami, S., and Maruyama, S. : Seroprevalence of *Toxoplasma gondii* infection in feral raccoons (*Procyon lotor*) in Japan. J. Parasitol. 97: 956-957, 2011.
4. Yamazaki, S., Motoi, Y., Nagai, K., Ishinazaka, T., Asano, M., and Suzuki, M.: Sex determination of sika deer (*Cervus nippon yesoensis*) using nested PCR from feces collected in the field. J. Vet. Med. Sci. 73: 1611-1616, 2011.
6. 松本郁実, 高島一昭, 山根 剛, 山根義久, 岡野 司, 浅野 玄 : 鳥取県中西部における疥癬に罹患したタヌキの保護頭数の推移. 動物臨床医学20: 13-17, 2011.
7. 亀井利活, 竹田謙一, 伊原和彦, 榊原史子, 岡田光弘, 小山泰弘 : 牧草地における野生ニホンジカの誘引捕獲に最適な誘引餌の探索およびその誘引効果と問題点の検証. *Animal behaviour and management* 47(4), 135-142, 2011
8. Abe M., Yamasaki A., Ito N., Mizoguchi T., Asano M., Okano T. and Sugiyama M. A potential zoonotic risk of rotaviruses in wild animals. (投稿中)



著書

1. 鈴木正嗣 : 次なる疾病への準備—人と野生動物との接点—. 伊吾田宏正・上田剛平・鈴木正嗣・山本俊昭・吉田剛司 (監訳) . 野生動物と社会—人間事象からの科学— (Wildlife and Society The Science of Human Dimension), 文永堂出版, pp. 245-263, 2011. (訳)



その他

1. 鈴木正嗣 : ハンターの存在意義を見直す「趣味としての狩猟」が支える個体群管理. グリーン・パワー No. 390: 6-7, 2011.
2. 鈴木正嗣 : シカの個体群管理に関する新たな考え方. 和歌山の果実 10月号: 7-9, 2011.
3. 鈴木正嗣 : これからのシカ管理におけるブレイク・スルー試行. 季刊・森林総研 No. 15: 3, 2011.



学会発表（一般口頭・ポスター）

1. 亀井利活, 安藤正規, 浅野玄, 近藤誠司, 秦寛, 内山知, 石坂祐子, 鈴木正嗣. 時間を制限した給餌によるシカの出現時間帯コントロールの試み. 日本哺乳類学会2011年度大会（2011年9月, 宮崎）
2. 中川恒祐, 浅野玄, 鈴木正嗣. 骨密度を用いたツキノワグマの長期的栄養状態把握のための試み～疫学的要因と餌環境の影響～. 日本哺乳類学会2011年度大会（2011年9月, 宮崎）
3. 山崎翔気, 伊藤圭子, 岡野司, 浅野玄, 鈴木正嗣. 傷病鳥獣救護個体における種判別～遺伝子診断の適用～. 第17回日本野生動物医学会大会（2011年9月-10月, 東京）
4. 松山亮太, 岡野司, 伊藤圭子, 浅野玄, 鈴木正嗣. 日本産センコウヒゼンダニのミトコンドリアCO1 遺伝子およびマイクロサテライト領域における分子マーカーとしての有効性. 第17回日本野生動物医学会大会（2011年9月-10月, 東京）
5. 西川祐美, 亀井利活, 足立樹, 楠田哲士, 近藤誠司, 秦寛, 石名坂豪, 乙部有加, 浅野玄, 鈴木正嗣. ニホンジカ (*Cervus nippon*) 捕獲時におけるストレスの生理学的評価とストレスマーカーの検討. 第17回日本野生動物医学会大会（2011年9月-10月, 東京）
6. 山崎翔気, 本井祐太, 長井和哉, 石名坂豪, 浅野玄, 鈴木正嗣. 野外で採材したエゾシカの糞便におけるNested PCRを用いた雌雄判別. 第17回野生生物保護学会北海道大会（2011年10月, 東京）
7. 亀井利活, 山崎翔気, 柳川洋二郎, 近藤誠司, 秦寛, 浅野玄, 鈴木正嗣. 牧草地におけるくくりわなを用いたエゾシカ捕獲の試みとその効率性の検討. 第17回野生生物保護学会北海道大会（2011年10月, 東京）
8. 辻知香, 横山真弓, 浅野玄, 鈴木正嗣. 六甲山イノシシの繁殖と栄養状態. 日本生態学会 近畿地区会 2011年度第2回例会（2011年12月, 兵庫）
9. 辻知香, 横山真弓, 藤木大介, 浅野玄, 鈴木正嗣. 堅果類の豊凶はニホンイノシシ (*Sus scrofa leucomystax*) の成長と繁殖に影響を及ぼすか?. 第58回日本生態学会（2011年3月, 北海道）
10. 本井祐太, 鈴木正嗣, 安藤秀二, 川端寛樹, 高野愛, 猪熊壽, 田原研司, 金森弘樹. 島根半島部のイノシシ再分布による紅斑熱群リケッチアへの影響. 第153回日本獣医学会学術集会（2012年3月, 埼玉）



学会シンポジウム・自由集会等

1. 辻知香. 学生としての関わり方. 日本野生動物医学会学生会主催野生動物入門セミナー（2011年8月, 東京）
2. 亀井利活. 野生ニホンジカの牧草地利用の解明とそれに基づいた誘引捕獲技術の検討. 日本家畜管理学会・応用動物行動学会共催2011年度秋季シンポジウム（2011年8月, 青森）
3. 辻知香, 横山真弓, 大橋正孝, 早稲田宏一, 鈴木正嗣, 鈴木克哉. 都市に侵入する野生動物に対応するための体制づくりを考える. 第17回野生生物保護学会.（2011年10月, 北海道）



他機関等への標本提供

(「研究題目」, 研究代表者(所属), 提供物品及び情報等)

1. 「様々な野生動物の舌の走査型電子顕微鏡による観察」, 江村正一(岐阜大学医学部), 野生動物の舌
2. 「野鳥における鳥マラリア原虫感染に関する研究」, 村田浩一(日本大学生物資源科学部), 鳥類の血液
3. 「自然界におけるA群口タウウイルスの感染環の解明」, 岡寺康太(岐阜大学獣医学部), 糞便
4. 「カワウ(*Phalacrocorax carbo*)の食道、腺胃、筋胃における組織学的研究」, 石橋知可子(岐阜大学獣医学部), 鳥類の食道から胃



新聞掲載・テレビ放送等

新聞掲載

・「岐阜大に鳥獣害研究部門」

2012年2月3日 岐阜新聞(朝刊)

県内の中山間地で鳥獣害被害が深刻な事態を受け、県は新年度、対策を強化し、よと岐阜大学(岐阜市柳戸)応用生物科学部に、寄付金で研究部門を開設する方針を固めた。官学連携で鳥獣被害に対する効果的な対策や施策づくりに乗り出す構えだ。鳥獣害対策分野で県が大学に研究部門を開設するのは、全国で初めて。財源は新年度から導入される「清流の国ぎふ森林・環境税」から初年度分として2千万円を充てる。野生動物研究では全国トップク

県、寄付金で開設

新年度 対策検証へ

ラフを誇る同大の知見を、鳥獣害対策に生かすのが狙い。寄付金による研究部門の開設とは、県からの寄付金を資金に、大学が県と連携して特定分野の研究を進めるもの。県が岐阜大に寄付金で研究部門を設けるのは、同大大学院医学系研究科の地域医療学講座に続き2例目。鳥獣害対策は全国で効果の検証が行われないまま実行されているケースが多いのが実態で、岐阜大の寄付研究部門では科学的に効果を検証する。応用生物科学

岐阜大に鳥獣害研究部門

・「鳥獣害対策科学の目で」

2012年2月11日 中日新聞(朝刊)

野生の鳥獣による農作物被害が深刻化しているため、岐阜大(岐阜市)は新年度、専門の研究室を設置する。科学的に実態や対応方法を調べ、専門職員を育成し、県のシンクタンク機能を持たせる。県は新年度予算案に創設のための寄付金約1千万円を盛り込む。財源は四月から導入する森林・環境税を充てる。

行動分析や専門職育成
研究室は岐阜大応用の生息密度や分布の地帯を調査し、より効果的な対策を模索し、鳥獣害の発生メカニズムを明らかにする。専門職員を育成し、県のシンクタンク機能を持たせる。

鳥獣害対策科学の目で

県が新年度 寄付金 岐阜大に研究室設置

鳥獣害対策は、イノシシ、シカ、サル、クマ、アライグマ、野良犬、野良猫、野生鳥獣の被害に悩まされている。科学的に実態や対応方法を調べ、専門職員を育成し、県のシンクタンク機能を持たせる。県は新年度予算案に創設のための寄付金約1千万円を盛り込む。財源は四月から導入する森林・環境税を充てる。

この記事は、岐阜新聞社と中日新聞社の許諾を得て転載しています。

無断で複製、送信、出版、頒布、翻訳、翻案等著作権を侵害する一切の行為を禁止します。

テレビ放映

・ 試行錯誤の防止柵 獣害と闘う男性

CBC「イッポウ」資料提供 2011年11月24日(資料提供:貞國)

組織と運営



運営協議会と会議メンバー

野生動物管理学研究センター運営協議会メンバー

- | | |
|-----------------------|---------------------|
| ・鈴木 正嗣 (センター長) | ・桑田 一夫 (センター併任教員) |
| ・浅野 玄 (副センター長) | ・柳井 徳磨 (センター併任教員) |
| ・土井 守 (生息域管理部門長) | ・山添 和明 (センター併任教員) |
| ・杉山 誠 (野生動物医科学部門長) | ・安藤 正規 (センター併任教員) |
| ・福士 秀人 (人獣共通感染症研究部門長) | ・石田 仁 (センター併任教員) |
| ・石黒 直隆 (センター併任教員) | ・楠田 哲士 (センター併任教員) |
| ・木曾 真 (センター併任教員) | ・高島 康弘 (センター併任教員) |
| ・北川 均 (センター併任教員) | ・花瀬 敏孝 (応用生物科学部事務長) |

野生動物管理学研究センタースタッフ会議メンバー

- | | |
|-------------------|-------------------|
| ・鈴木 正嗣 (センター長) | ・原口 句美 (リハビリテーター) |
| ・浅野 玄 (併任教員) | ・森本 直樹 (リハビリテーター) |
| ・羽賀 淳 (岐阜県非常勤獣医師) | ・森元 萌弥 (技術補佐員) |
| | ・貞國 利夫 (技術補佐員) |



運営経費 (単位：千円)

・野生動物管理学研究センター運営費

岐阜大学	政策経費	4,200
岐阜県	運営負担金	3,632

合計 7,832

(※県非常勤獣医師人件費は除く)

・岐阜県からの委託事業費

鳥獣害発生要因調査事業費	3,995
野生動物の保護管理対策委託事業費	3,500

合計 7,495



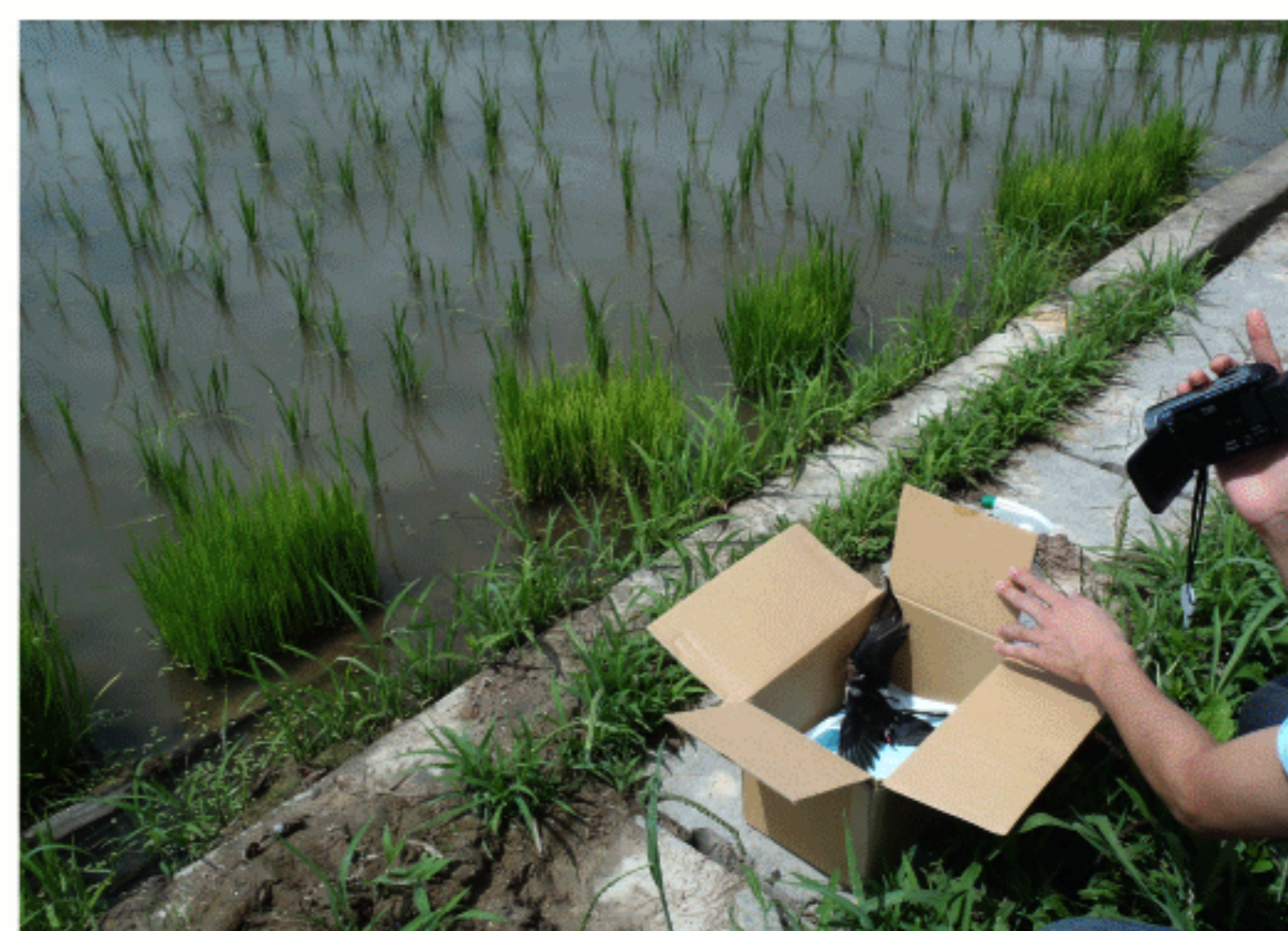
寄付一覧

(多くの寄付をいただいております。厚くお礼申し上げます。) 順不同・敬称略

- | | | | |
|------|---------------|------|--------|
| 〈企業〉 | JA岐阜農産物流通センター | 〈個人〉 | 石野 はるか |
| | 恵那さくら動物クリニック | | 直井 聡 |
| | (株)後藤孵卵場 | | 小林 周平 |
| | | | 辻 愛子 |



WRC11-005タヌキ(運動場でのリハビリテーション)



WRC11-010ツバメ(リリースの様子)

あしがき

岐阜県環境生活部長 秦 康之

平成19年度から岐阜大学と岐阜県で共同運営してまいりました「野生動物救護室」が、平成23年度末をもって閉鎖されることとなりました。平成15年11月に岐阜大学が設立された前身の「COE野生動物救護センター」から通算すると、8年5ヶ月に渡って運営され、この間に約1,000頭羽に及ぶ傷病野生鳥獣の受け入れが行われました。これまでご尽力いただきました大学関係者、関係団体及びボランティアの皆様には、心よりお礼申し上げたいと存じます。

さて、今回の救護施設閉鎖に至った背景としましては、近年、生物多様性という概念が急速に広まる中で、野生動物に対する社会情勢が設立当時と比べ大きく変化したことが要因として挙げられます。生物多様性保全という大きな枠組みの中では、野生動物を「個の命」としてではなく「生態系（食物連鎖）の構成要素」として捉え、その死にも身体を構成する栄養素を生態系へ還元するという重要な役割があることから、人間は必要以上に関わるべきではないと考えられます。また、野生動物による農林業や自然植生に対する被害、交通事故など日常生活における被害の増加、あるいは高病原性鳥インフルエンザ等人獣共通感染症の恐れなど、野生動物は「リスクを内在させた存在」として認識する必要があります。県におきましても、生物多様性保全の観点から、平成24年度からスタートする第11次鳥獣保護事業計画において、救護に当たって収容すべき目的や意義を明確にし、収容すべき鳥獣種を「個体レベルでの保全が必要な絶滅危惧種であり、かつ野生復帰が見込まれる個体」に限定したところです。

岐阜県は、県土の約82%が森林で構成され、豊かな森と水が育む多種多様な野生動物植物が私たちの暮らしに身近なものとなっています。しかし、その一方で管理されなくなった里山や耕作放棄地の増加に伴い、ニホンジカやイノシシなどの大型野生動物が中山間地を中心に出没し、農業被害額を例にとると平成17年度の122百万円から平成22年度には4倍の483百万円となるなど、野生動物と人間との軋轢は年々高まっています。県では、平成23年1月に知事をトップとする岐阜県鳥獣被害対策本部を設置し、有害鳥獣侵入防止柵の設置、有害捕獲基準や狩猟に係る規制緩和など各種対策を講じてきたところですが、依然として増加傾向に歯止めが掛からない状況にあります。

そのため、県では、全国でもトップクラスの野生動物研究部門「野生動物管理学研究センター」を持つ岐阜大学の科学的知見や分析能力を拝借し、県の鳥獣対策に助言・提言いただくシンクタンク機関として、平成24年度から新たな協力体制を構築したいと考えています。言わば、野生動物を「守るべき存在」と位置づけた第1ステージが解消し、野生動物保護管理体制は新たなステージに入ることになりますが、大学関係者並びに関係団体の皆様には、野生動物を巡る様々な課題解決に向けて一層のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

表紙写真

①	②	③
④	⑤	⑥
⑦	⑧	⑨

福井強志氏撮影
(日本野鳥の会・岐阜)

裏表紙写真



- ①キビタキ ②ヒガラ ③ジョウビタキ
④コゲラ ⑤オシドリ ⑥ヒヨドリ
⑦タゲリ ⑧コガモ ⑨キセキレイ
⑩サシバ



岐阜大学応用生物科学部
附属野生動物管理学研究センター
〒501-1193 岐阜市柳戸1-1
Tel/Fax 058-293-2959
<http://www1.gifu-u.ac.jp/~kyugoyas/index.html>